

氏 名 丸山 昭洋

所属・職名 市立四日市病院 消化器内科 医員

○ 受賞の感想と今後の抱負

この度は若手研究者賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。市立四日市病院消化器内科部長、小林真先生をはじめ研究にあたってご指導頂いた多くの先生方に深く御礼申し上げます。今回の受賞を励みに今後もより一層研究に精進したいと考えておりますので、引き続き御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

○ 受賞テーマ

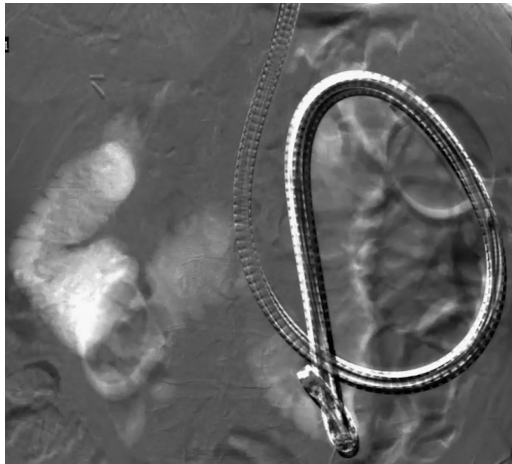
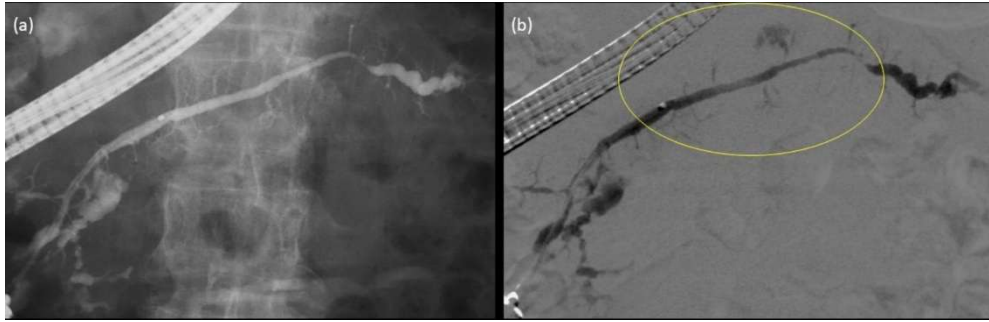
「地域中核病院における新規内視鏡手技の応用と臨床的有用性の検討」

○ 研究の概要と将来展望

近年、消化管・胆膵領域における内視鏡診療は飛躍的に発展しているが、解剖学的制約やデバイスの限界により、依然として「高難度症例」が存在する。大学病院や専門施設では領域ごとに高度に分化した取り組みが進められているが、地域中核病院では診療領域が分かれていないからこそ、柔軟な発想と工夫が求められる。私はその環境を活かし、既存の枠を超えた新規内視鏡手技を提案してきた。

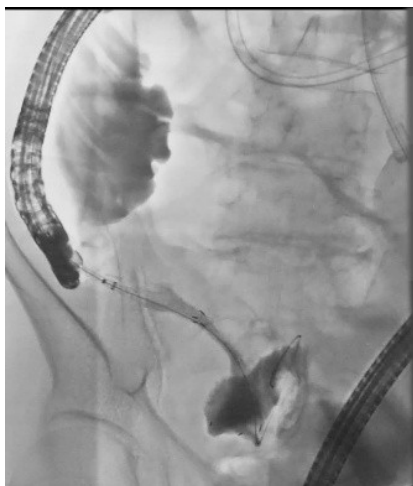
① Digital Subtraction Imaging (DSI) を胆膵内視鏡の融合

術後再建腸管における ERCP では、造影剤ではなく二酸化炭素を用いることで腸管ルートを明瞭化できるとされているが通常のレントゲン撮影ではそのルートの判別は経験の少ない術者には困難である。そこで我々は、CO₂ enterography と DSI を組み合わせることでより明瞭に route selection ができるような方法を考案し CO₂ digital subtraction enterography として世界で初めて報告した。さらに、従来の透視では描出困難であった膵管分枝の評価を可能とする digital subtraction pancreatography (DSP) を考案し、早期膵癌が疑われる病変において有用性を示した。10 例の早期癌疑いの病変に対する DSP の後ろ向き検討を膵臓学会 2025 の特別企画で発表した。また、Digital subtraction CO₂ cholangiography を考案し肝門部胆管造影の新たな造影方法として提案した。これらは Endoscopy に論文掲載された。



② 回盲部悪性狭窄に対する Self-expandable metallic stent 留置

回盲部は解剖学的にステントの留置難易度が極めて高い部位であるが、通常は胆膵領域の ERCP などを用いる側視鏡とバルーン付きオーバーチューブを応用すること、また、先端が tapering されているフードを使用することで安全なステント留置を可能とした。これにより、従来は対応困難と考えられていた症例に対しても安全かつ確実に治療を行えることを実証し Endoscopy に論文掲載され、腹部救急学会のパネルディスカッションで発表した。



○ 関連分野における本研究の特筆すべき点

本研究の特筆すべき点は、地域中核病院という環境から生まれた独自の工夫を体系化し、内視鏡分野に新たな視点を提示したところにある。大学病院や専門施設のように領域ごとに分化していない診療体制だからこそ、既存の枠にとらわれず、異なる領域の機材や技術を応用できた。例えば、胆膵内視鏡で用いられる側視鏡を回盲部ステント留置に活用したことや、血管造影で確立された Digital Subtraction Imaging を胆膵内視鏡に融合させたことは、その象徴的な成果である。これらの研究は、「領域を越える柔軟性」と「異分野技術の融合」という地域中核病院ならではの発想から生まれた実践的イノベーションであり、日常診療に直結する意義を持つと考えている。

○ 本研究の将来期待される点

今後は、CO₂ digital subtraction enterography について、通常の CO₂ enterography との前向き比較試験を計画しており、その有効性を臨床的に検証していきたい。また、術後再建腸管における ERCP 時のルート選択にとどまらず、Crohn 病など多発狭窄を伴う症例に対する腸管評価への応用についても有用性の評価を検討している。回盲部ステント留置に関しては、さらなる症例集積を進め、技術的工夫の妥当性と臨床成績を明確に示すことを目指している。さらに、digital subtraction pancreatography は現在、早期膵癌が疑われる病変の膵管造影に限定して使用しているが、今後は EUS-PD や経乳頭的膵管ステント留置の際にも応用範囲を拡大し、症例を蓄積してその臨床的有用性を評価していく予定である。

○ 本研究に関連する代表的な原書学術論文（1編）

Maruyama A, Nakayabu H, Takeshima H, Kato H, Tominaga S, Kobayashi M. Optimizing self-expandable metallic stent placement for malignant ileocecal obstruction: Role of pre-stenting contrast enema and device selection. *Endosc Int Open*. 2025 Nov 10;13:a27330780. doi: 10.1055/a-2733-0780.

○ 略歴

2013年3月 高田高等学校卒業

2013年4月 名古屋大学医学部入学

2019年3月 名古屋大学医学部卒業

2019年4月-2023年3月 市立四日市病院 消化器内科

2023年4月-2024年3月 社会医療法人大同病院 消化器内科

2024年4月- 市立四日市病院 消化器内科

○ 専門分野

消化器内視鏡

○ 医学博士、専門医資格など

内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医